

カラマツタネバエ

カラマツの若い松ぼっくりの付け根近くが茶色に変わる。内部に白いウジムシ（幼虫）がいる。最大長約6mm。まれに多発し、種の収穫量を減らす。



- 1（左）．寄生されたカラマツ球果。1988/6。美唄市。
- 2（中）．幼虫，球果内から取り出して撮影。1988。美唄市。
- 3（右）．卵。1989/5。野幌。

【学名】 *Lasiomma laricicola* 【分類】 ハエ目 (Diptera) , ハナバエ科 (Anthomyiidae)

【分布】 北海道，本州；朝鮮半島，シベリア，ヨーロッパ。

【生態】

宿主：カラマツ，グイマツ。

年1世代。蛹で越冬。成虫は4月下旬～5月上旬に羽化する。雌成虫はカラマツの花粉の飛散が終了する頃，若い球果の根元付近に産卵する。孵化した幼虫は球果内に食い入り，種子を食べて成長する。7月に幼虫は外に出て落葉層中で蛹になる。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

カラマツタネバエ hanabae/karatane/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2002/1/6.

higaika.JPG, yochu.JPG, tamago.JPG

「写真 1 ~ 3」 上条一昭, 北海道立林業試験場, 1988-1989.